

自治体DXアワードの概要

自治体DXアワードは、日経デジタルフォーラム、自治体DX白書の共催（総務省後援）により、**先進的なDXの取組を行う全国の自治体を対象**にタイトルを贈呈し、その取組を広く周知することで**社会全体のDXリテラシーレベルの向上と、日本の産業力強化に寄与**することを目的に令和3年度に創設されたもの。



自治体DXアワードで募集対象テーマ

- DXリード部門** 全庁的なマネジメント体制の構築と他自治体の手本となるようなDX推進に向けた強力なリーダーシップの明示、マニフェスト(宣言)の発出など。
- デジタル人材育成部門** DX推進に向け、行政機関内におけるデジタル人材の確保、育成に向けた計画、及び取組が進んでいるもの
- 行政事務・サービス変革部門** AIやRPA導入によるBRP推進の取組、その効果。また、マイナンバー等をはじめ、行政サービスのオンライン化、及びその利用が進んでいるもの
- 地域産業デジタル化推進** 地域産業のデジタル化推進のために取組が進んでいる。地域共創の取組やデジタルサンドボックス等
- 地域リテラシー啓発部門** 地域企業・住民のデジタルリテラシー向上に向けた啓発や取組、その効果。

選考ポイント

- 地域社会視点** より良い地域社会の創出を目指した取組になっているか。また、地域社会の理解を得られる内容になっているか。
- 実効性** 設定された目標に向け、取組が適切に実行されているか。取組の実行者・利用者が明確であるか。
- 影響力・効果** 自治体内・住民・地域産業などに対し、影響力・効果のある取組となっているか。また、具体的な目標が設定されているか。
- 新規性(ユニーク性)・継続性(拡張性)** 地域社会(自治体)の特性に合わせた取組になっている。また、継続性や拡張性あるか。

受賞内容 (取組概要)

- デジタル人材の育成**
情報戦略課職員が実施しているAIやデータサイエンスに関する勉強会及び専門監を中心にしたDXに関する意識改革に関する研修

(主な内容を抜粋)

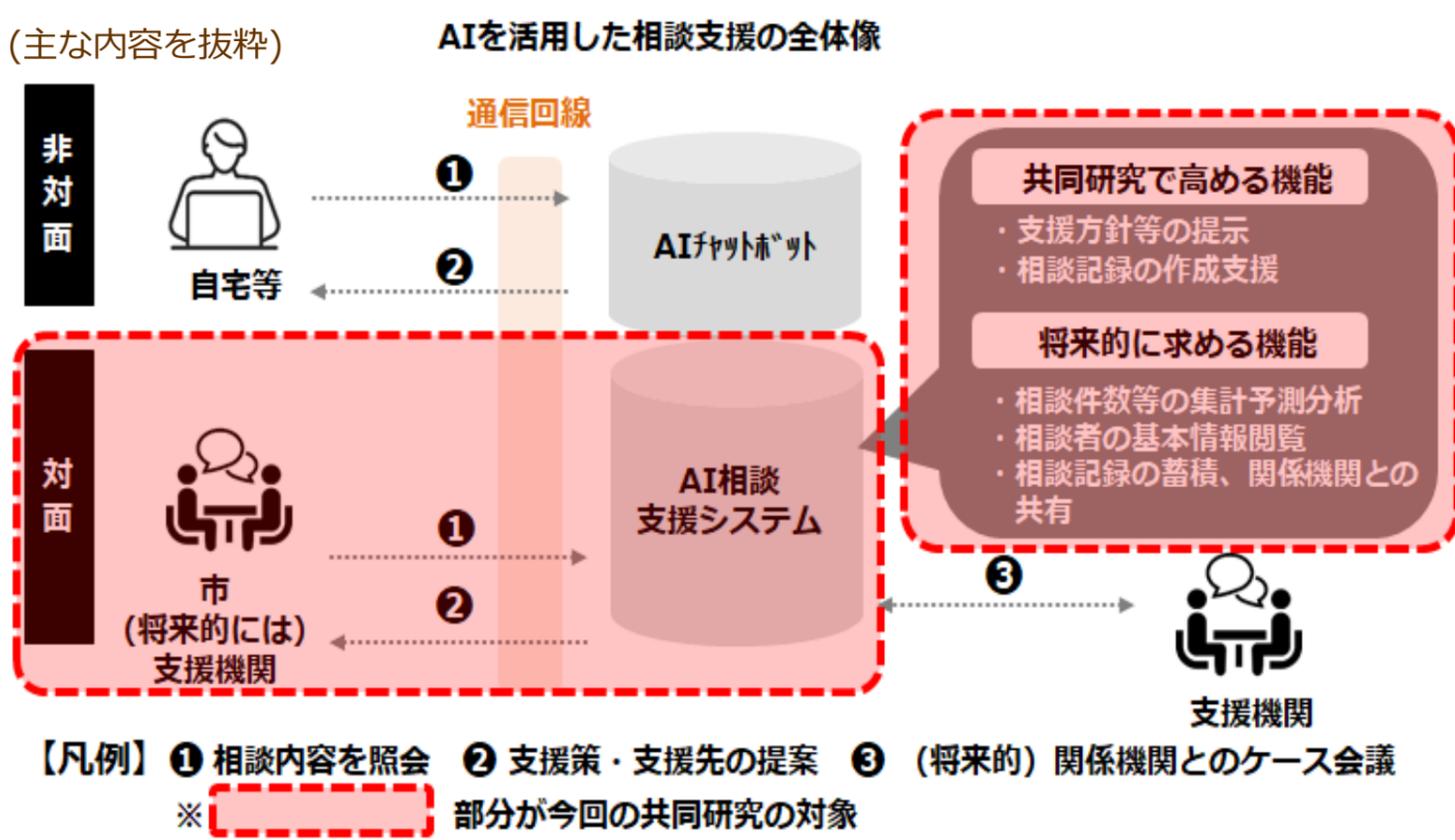
知識・スキルの向上

<p>AI勉強会の実施</p> <p>AIを道具として適切に使うための基礎知識を習得するため、ディープラーニングG検定の内容をベースとした、組織内勉強会を実施。総勢60名参加。G検定合格者12名。</p>	<p>実用的なツールの使い方研修会</p> <p>電子申請、AI議事録、RPAなどの業務における使い方研修会を実施し、導入後の普及啓蒙に努めている。</p>						
<p>ITパスポートの取得推奨</p> <p>基本的かつ必要不可欠なIT知識が習得できる、ITパスポートを一般職員に推奨している。おススメ勉強法や合格者インタビューなどを庁内WEBに掲載し、積極的な挑戦を後押ししている。総勢16名が合格。</p>	<p>各種資格検定料の補助</p> <p>ディープラーニングG検定、ITパスポート、情報処理技術者試験などの資格検定料の半額を補助し、費用面のサポートを実施している。</p>						
<p>情報処理技術者試験の取得推進</p> <p>情報部門の職員には、より高度なIT知識が求められるため、専門性が身につく情報処理技術者試験を推奨している。</p> <p>【これまでの実績】</p> <table border="1"> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>応用情報技術者試験</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>データベーススペシャリスト試験</td> <td>1名</td> </tr> </table>	基本情報技術者試験	2名	応用情報技術者試験	2名	データベーススペシャリスト試験	1名	<p>その他各種Eラーニングの推奨</p> <p>その他、個人の特性に合わせたスキルアップを支援するために、地方公共団体情報システム機構や外部業者のEラーニングを活用し、システム導入に関する基礎知識やオフィス系ツールのスキルアップを図っている。</p>
基本情報技術者試験	2名						
応用情報技術者試験	2名						
データベーススペシャリスト試験	1名						

デジタル人材育成部門表彰

- AIを活用した相談支援**
民間企業と連携して実施しているAI相談パートナーの共同研究

(主な内容を抜粋)



行政事務・サービス変革部門表彰